

日本語における懸念表明に対する慰め行動と性差

張 楽 (金沢大学大学院生)

1. 研究の目的

本稿の目的は、同性友人間の日本語慰め行動をデータに、慰められる側が繰り返す【懸念表明】に着目し、慰め行動のフロー（会話の流れ）とその性差を明らかにすることにある。張(2021)では、意味単位(semantic formula)という枠組みを用い、慰め行動を3段階からなる相互行為と捉え、各段階において男女それぞれに多用される意味単位を抽出することにより、慰め行動のフローを考察した。しかしながら、各段階における意味単位の出現順序という内的構造が分析されていないという問題点がある。慰め行動は、慰める側と慰められる側との複数回のやりとりによって構成されている。その際、慰められる側も懸念を数回表明することがある。毎回の懸念表明に応じて、慰める側の慰め行動にも変化が生じる可能性がある。そこで、本稿では繰り返される【懸念表明】に対して、慰める側の慰め行動の対応の変化を考察することにより、慰め行動のフローの内的構造とその性差を明らかにすることを目指す。

2. 「慰め行動」の定義

慰め行動の定義について、日本語の研究では、関山(1998:11)が「何らかの困難や苦勞に直面している者に対して、その困難や苦勞を癒したり、克服する手助けをすることを目的とした発話行為」と定義している。この定義が、日本の多くの研究者(黒川, 2001; 塩見・米澤, 2008; 中野・正保, 2011)に踏襲されている。

しかし、慰め行動を発話行為、あるいは単独の発話として捉え、そしてその目的のみから定義するのは不十分である。実際の経験から判断すると、相手のネガティブな感情を和らげようとするならば、慰める側は相手の過去の行為についての情報を把握し、理解している必要があり、そして相手の反応により、相手のネガティブな感情を一時的にでも和らげられたかどうかを確認する必要もある。そのため、慰め行動とは、慰める側が相手のネガティブな感情や状況を把握するために、相手に関連する過去の出来事などの情報を尋ねるところから、相手のネガティブな感情を和らげられたことが確認できるところまでの一連の相互行為と理解される。そうだとすれば、慰め行動は、その目的に加えて、さまざまな発話行為からなる一連の複合的な相互行為であると定義し直す必要がある。これに基づき、本稿では、「相手に情報や過去の行為を尋ねるための発話行為、相手のネガティブな感情や状況を和らげようとするための発話行為、さらに相手のネガティブな感情が和らげられたことを確認するための発話行為という複数の発話行為からなる相互行為」を慰め行動と定義する。

3. 調査概要と研究方法

3.1 調査協力者と調査方法

本稿は、2021年6~8月に北陸地域のK市で調査を実施した。調査協力者は20~24歳のK大学の学生であり、男女それぞれ同性ペア10組に依頼している。調査では、大学生にとって馴染みのある就職活動に関わる場面を設定し、同性同士の大学生2名1組にロールプレイ形式の会話を行わせた。慰め行動はある程度の親しさが前提になるため、本調査では、慰める側と慰められる側の関係を「親しい友達」という人間関係に設定した。この「親しい友達」とは、「悩みを打ち明けることができる、信頼できる相手」という関係を指す。そして、より自然な会話データが収集できるように、調査協力者は実際に親しい友達関係にある者同士に依頼した。会話の場面は録音・録画を行い、得られたデータは宇佐美(2019)に基づいて文字化した。

3.2 研究方法

3.2.1 慰め行動の3段階

本稿では、張(2020)の慰め行動を3段階に分けた枠組みを用いる。つまり、慰め行動の構成を、「前慰め段階」、「慰め

段階」, 「後慰め段階」の3段階に分け, それぞれに以下のように定義する:

「前慰め段階」: 相手のネガティブな感情を持っていることを察した後, 話しかける段階

「慰め段階」: 相手のネガティブな感情を持っていることを確認した上で, 慰める段階

「後慰め段階」: 相手がさしあたり納得したところを確認した上で, 慰め行動を終了する段階

3.2.2 意味単位による分析の枠組み

慰め行動におけるフローは複数の意味内容を持った発話行為の連鎖からなる。したがって, そのフローを明らかにするためには, 発話行為の意味や機能を明確にする必要がある。そこで, 本稿では, 意味単位 (semantic formula) の枠組みを用いて, 慰め行動を分析する。意味単位は, Beebe et al. (1990) で断り発話を分析するのに用いられ, 発話行為を分析するために使用されている発話の最小機能単位であり, 断り発話行為だけでなく, 他の発話行為の研究にも広く採用されているからである。したがって, 慰め行動における発話の意味や機能の分析にも, 意味単位の枠組みが有効であると考えられる。張(2021)では, Beebe et al. (1990) の意味単位の枠組みを参考に, 慰め行動の特徴に合わせて, 意味単位を, 具体的な内容を示す「個別意味単位」とそれらをグループ化する上位の「意味単位カテゴリー」の2種類に分ける, 新たな意味単位の枠組みを作成した。本稿では, 慰められる側の反応も考慮に入れるため, 【懸念表明】と【納得】の2つの個別意味単位を加える。上位概念としての意味単位カテゴリーにより, 個々の発話が示す個別意味単位がどのようなカテゴリーから構成されるのかが明らかにされ, 大まかな会話のフローが観察できるようになる。それぞれの意味単位カテゴリーに属する具体的な個別意味単位を挙げると, 表1のようになる。個別意味単位は【 】を, 意味単位カテゴリーは{ }を用いて表記する。

表1 慰め行動における意味単位の枠組み

意味単位カテゴリー	個別意味単位	機能	発話例
慰める側			
{情報行動}	【挨拶】	直接的に相手の状況を尋ねず, 挨拶で自分から話題を展開する	最近, どう? / 何してるの?
	【情報要求】	まだ分かっていない情報を求める	なんで?
	【情報確認】	知り得た情報を確認する	何事にもやる気がないって感じ?
{状況評価行動}	【否定】	相手の気持ちや考え方を否定する	いや, そんなに悲観する必要がない
	【肯定】	相手の気持ちや考え方を肯定する	そう, 一位じゃないの, そういうこと
	【共感】	相手が悩んでいることを同じように感じて, 理解や同情を示す	そっか, この時期大変だよな
	【最小化】	大きな問題とみなされない旨を表明する	全然大丈夫だと思う
{状況分析行動}	【責任転嫁】	責任を他人に押し付ける	そこが「名前」の魅力がわからんあっちが悪い
	【楽観視】	状況を良いように考えて, 理由を説明する	まだ時間あるしね
	【現状指摘】	現状について, 問題となる点を客観的に分析し, 自分の考えを詳しく説明する	自信はそんな一日でつくようなもんじゃないよ
	【褒め】	相手のいいところを挙げたり, 相手の現状を肯定したりする	人柄めっちゃいいし, 話しやすいし, 面白いし
{対処法提示行動}	【提案】	ネガティブな感情や問題を解消するために, 解決策や考え方を提供する	演劇部に行ってみたらどうだ?
	【経験提供】	自分の経験をシェアする	俺は教採で, もしも落ちたら, 後一年間また勉強してやるって感じだから
	【協力】	協力を申し出る	なんでも話して

	【注意転移】	食事に誘う	終わったら、一緒にご飯を食べよう
{励まし行動}	【行動促進】	相手の行動を促す	一年間頑張ってください
	【元気づけ】	相手の能力を信じる	君ならいける
慰められる側			
{情報提供行動?}	【懸念表明】	自分の状況や悩みを打ち明ける	自分ダメかもしれないって思い始めてきてる
	【納得】	慰める側の考えを受け入れる	すっきりした、ありがとう

意味単位を利用することにより、慰め行動の3段階をより明確にすることができる。本稿では、慰める側が【挨拶】や【情報要求】で話かけるところから、慰められる側が1回目の【懸念表明】で自分の状況を打ち明けたところまで（もしくは慰められる側から【懸念表明】で話しかけられるところ）を「前慰め段階」、慰める側が、1回目の【懸念表明】に対して態度や意見を表明するところから、慰められる側が【納得】で慰める側の考えを初めて受け入れるところまでを「慰め段階」、慰める側が慰められる側の【納得】を確認するところから、会話終了までを【後慰め段階】と規定する。

4. 結果と考察

【懸念表明】は、「前慰め段階」と「慰め段階」に見られるため、本研究では「前慰め段階」と「慰め段階」に限定して考察する。

4.1 「前慰め段階」

この段階では、男女ともに、最初に【情報要求】で相手の状況を尋ねる傾向が高い（男性10組中7組、女性10組中8組）。また、【情報要求】ではなく、【挨拶】で間接的に相手の状況を尋ねることも観察されている（男女各10組中1組）。つまり、相手のネガティブな感情を察した後、男女ともに【情報要求】により直接的に相手に1回目の【懸念表明】をさせようとする。しかし、相手の状況を配慮しながら、間接的に相手に【懸念表明】させる場合もあることが分かる。

4.2 「慰め段階」

「慰め段階」に入っても、慰められる側は男女ともに【懸念表明】を数回繰り返すことがあるため、慰める側が使用する意味単位も異なることが観察されている。

1回目の【懸念表明】を加え、男性の場合、5回（10組中の3組）から9回（10組の4組）の【懸念表明】が見られる。下の表2に各回で男性が一番多く使用する意味単位を示す。

表2 「慰め段階」における男性が一番多く使用する意味単位

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目
合計	【情報確認】(50%)	【情報要求】(31%)	【共感】 【提案】(19%)	【提案】(29%)	【提案】 【現状指摘】(26%)	【共感】(22%)	【現状指摘】 【提案】(25%)	【提案】(20%)	【現状指摘】(31%)

表2を見ると、最初の2回まで男性は【情報確認】と【情報要求】を一番多く使っている。3回目以降6回目までは【共感】と【提案】を多く使用するよう変化してきている。そして、7回目から最後の9回目までは【提案】と【現状指摘】を一番多用している。つまり、男性の場合、まず状況中心の発話、すなわち【情報確認】と【情報要求】を用いて相手の状況を把握しようとする。そして、感情中心の発話を加えて、【共感】で自分の理解を示しながら、【提案】でアドバイスをしようとする。さらに、状況中心の発話に切り替え、【現状指摘】と【提案】で現状を分析して説明し、相手に自分の考えを納得させるようとしていることが分かる。

表3は各回で女性が一番多く使用する意味単位である。

表3 「慰め段階」における女性が一番多く使用する意味単位

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
合計	【共感】(40%)	【共感】(35%)	【褒め】(23%)	【共感】 【現状指摘】(24%)	【提案】 【褒め】(25%)	【提案】 【楽観視】(21%)

女性の場合、【懸念表明】は4回（10組中の4組）から6回（10組の4組）まで繰り返される。最初の2回まで女性は【共感】を一番多く使用する。そして、3回目は【褒め】を多用している。4回目から5回目までは【共感】と【褒め】を多く使うと同時に、【現状指摘】と【提案】も多用している。最後の6回目では、【提案】と【楽観視】を多く使っている。つまり、女性は、まず共感を示しながら、相手のネガティブな感情を共有しようとしたり、相手のいいところを褒めることで相手に自信つけさせたりする。そして、相手がまだ納得しない場合、【現状指摘】で現状を分析したり、【提案】でアドバイスをしたりすることに加えて、感情中心の発話と状況中心の発話を併用するように変化した。さらに、【提案】と【楽観視】でアドバイスを提案しながら、状況を良いように考えさせたりすることで、感情中心から状況中心の発話に切り替えている。

5. 結論

本稿では、以下の図1のように、【懸念表明】の出現に応じて慰め行動の内的フローに性差があることが確認された。

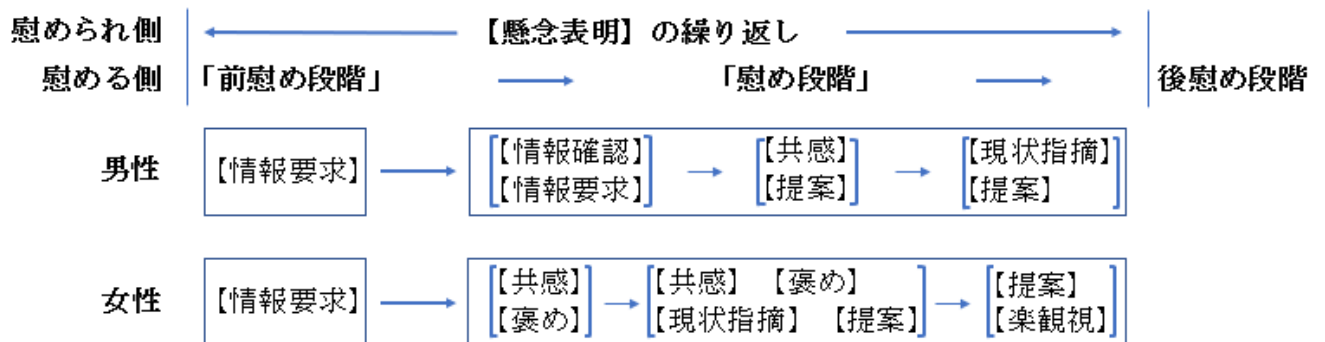


図1 【懸念表明】に対する男女それぞれの慰め行動

すなわち、男女ともに感情中心から状況中心の発話へと変えようとしている。しかし、男性はまず全体の状況を把握することを重要視しているが、女性はまず理解を示すことと自信もたせることを大事に考えていることが分かった。今後は、「後慰め段階」に繰り返される【納得】に着目して考察を進め、さらに慰め行動の全体像の解明を目指して行きたい。

参考文献

- Beebe, L., Takahashi, T., & Uliss-Weltz, R. (1990). Pragmatic Transfer in ESL Refusals, In R. Scarcella, E. Andersen, & S. Krashen (eds.), *Developing Communicative Competence in a Second Language*. 55-73. New York: Newbury House.
- 黒川直美 (2001). 日本語母語話者による「励まし」行為の特徴, 言語と人間研究会 5 月例会, 研究報告, <<https://sekky.tripod.com/0105kurokawa.html>> (最終閲覧日 2021 年 12 月 27 日).
- 中野友貴・正保春彦 (2011). 励ましの言葉の受け取り方に関する一考察 : 発話群・発話期待群の比較から, 茨城大学教育実践研究, **30**, 13-25.
- 関山健治 (1998). 日本語の「慰め・激励」表現に見られる Politeness Strategy—話者の性別と社会変数による影響・大学生の場合— 白馬夏季言語学会論文集, **9**, 11-17.
- 塩見式子・米澤昌子 (2008). 「慰め・励まし」の様相 : シナリオを例として, 関西外国語大学留学生別科日本語教育論集, **18**, 1-15.
- 宇佐美まゆみ (2019). 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2019 年改訂版, <https://ninjal-usamilab.info/about_btsj/> (最終閲覧日 2021 年 7 月 25 日).
- 張楽 (2020). 慰め行動における性差—青春ものアニメの分析—, 日本語用論学会第 23 回大会発表論文集, **16**, 33-40.
- 張楽 (2021). 日本語の慰め行動における性差—同性友人間の比較から—, 日本語用論学会第 24 回大会(口頭発表, Zoom オンライン, 2021 年 12 月 19 日)